

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

第9回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ

日時： 令和元年8月1日（木） 14：00～16：00

場所： 釧路地方合同庁舎 4階 第3会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 第8回ワーキンググループ会合以降の取組み
 - 2) 第3期再生普及行動計画期間における取組みの評価
3. その他
4. 閉 会

----- 配布資料一覧 -----

- 第9回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ 資料
- ・ 資料1 第8回ワーキンググループ会合以降の取組み
 - ・ 資料2 第3期再生普及行動計画期間におけるWGの取組み
- 参考資料1 釧路湿原サイエンスフェア展示ボード
- 参考資料2 WEBサイト「やってみよう！ジュニア研究」

出席者名簿（敬称略・順不同）

< 専門家 >

所属等	氏 名
再生普及小委員会委員長（前北海道教育大学釧路校准教授）	高橋 忠一 ○
北海道教育大学釧路校 教授	境 智洋 ○

< 学校教員 >

所属等	出席者
釧路市立中央小学校	池田 絵理香
釧路町立別保小学校	木村 浩二 ○
標茶町立標茶小学校	萬 拓馬 ○
鶴居村立下幌呂小学校	柴田 康吉 ○
釧路湖陵高等学校	渡辺 理実

< 学校教育行政機関等 >

機 関 名	出席者
北海道教育庁釧路教育局 教育支援課	指導主事 富田 和臣
釧路市教育委員会 学校教育部 教育支援課	指導主事 畠山 和彦
釧路町教育委員会 教育部 指導主事室	室長 加藤 誠一
標茶町教育委員会 指導室	指導室長 蠣崎 浩一 ○
弟子屈町教育委員会 指導室	指導室長 辻川 智宏
鶴居村教育委員会 管理課 学校教育係	係長 清野 玲子
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	自然再生企画官 中西 誠 ○

< 事務局 >

機 関 名	出席者
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	自然保護官 矢部 敦子
公益財団法人北海道環境財団	環境教育課長 山本 泰志 環境教育課 安田 智子

第8回ワーキンググループ会合以降の取組み

1. 湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進

○学校における実践の企画・取材、フィールド情報マップとりまとめ

釧路湿原流域において、フィールド学習が可能な場所を実践例と合わせて紹介する「フィールド情報マップ（kushiro-ee.jp/fieldmap）」に幌呂地区湿原再生事業地およびサルボ、サルルン展望地のフィールド情報、実践事例を追加した。



（幌呂地区湿原再生事業地の紹介ページ）



（サルボ、サルルン展望地の紹介ページ）

今年度については、釧路町別保小学校5年生の学習で活用する細岡周辺フィールド^①、釧路市立中央小学校5年生の学習で活用する温根内周辺フィールド^②を対象として、とりまとめを行う。

2. 自然再生の学校教育への活用促進

○達古武地区森林再生事業の活用

・標茶町立標茶小学校 フィールド学習の事前下見

- 実施日時 : 5月13日(月) 15:45～17:00
 実施場所 : 達古武地区森林再生事業地(苗畑)、
 夢ヶ丘遊歩道
 対象 : 5年生担任教諭
 主な内容 : フィールドプログラムの紹介



・ 標茶町立標茶小学校 フィールド学習

実施日時 : 5月24日(金) 9:30~13:00
実施場所 : 達古武地区森林再生事業地(苗畑)、
夢ヶ丘遊歩道
対象 : 5年生 45名
案内 : 釧路湿原自然保護官事務所
主な内容 : 森づくりの取組み紹介、生き物調査他フ
ィールドプログラムの実施



・ 釧路湖陵高等学校 地域巡検に向けた事前講義

実施日時 : 6月10日(月) 13:20~14:10
実施場所 : 釧路湖陵高等学校
対象 : 理数科1年生 41名
主な内容 : 釧路湿原巡検について

・ 釧路湖陵高等学校 フィールドでの事前学習

実施日時 : 6月13日(木) 13:30~15:30
実施場所 : 達古武地区森林再生事業地
対象 : 理数科1年生 7名、担任教諭
指導 : さっぽろ自然調査館
主な内容 : 森づくりの取組み紹介、地表性昆虫調査
に向けたトラップ設置の指導



・ 釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検

実施日時 : 6月26日(水) 8:30~16:30
実施場所 : 達古武地区森林再生事業地および夢ヶ丘遊歩道、展望地
対象 : 釧路湖陵高等学校 理数科1年生 40名、宮城県多賀城高校1年生 4名
指導 : さっぽろ自然調査館、釧路自然環境事務所
主な内容 : 森づくりの取組み紹介、地表性昆虫および水辺の生き物調査、遊歩道および
展望地でのレクチャー

○ 幌呂地区湿原再生事業の活用

・ 阿寒高等学校 地域巡検

実施日時 : 7月24日(水) 13:00~14:00
実施場所 : 幌呂地区湿原再生事業地
対象 : 1,2年生 39名
案内 : 釧路自然環境事務所、
釧路開発建設部治水課
主な内容 : 自然再生事業概要の紹介、事業地の視察

今後新たな実践づくりに向けて、学校との意見交換、調整を行っていく。

3. 学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

○教員研修講座の実施

- ・ 釧路教育研究センター共催教員研修講座

[日時] 5月14日(火) 9:00~15:50

[場所] 釧路湿原野生生物保護センター、釧路町内のフィールド

[講師] 照井 滋晴氏 (NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG)

[参加者] 9名

[内容] オジロワシ等の大型猛禽類やキタサンショウウオ等の釧路湿原に生息する希少な生き物に焦点を当て、釧路湿原野生生物保護センターのバックヤードツアーやキタサンショウウオ生息地でのフィールドワークを行った。フィールドでの体験と講話を通して、生息を脅かす要因、必要な生息環境、ここ数十年の変化等を学び、私たちの暮らしとの関係についてみつめた。



- ・ 第62回北海道高等学校理科研究大会

[日時] 7月31日(水) 11:00~12:30

[場所] 釧路市生涯学習センター 多目的ホール

[講師] 釧路湿原自然保護官事務所

[参加者] 150名

[内容] 講演「釧路湿原の保全と再生」



今年度については、さらに1回の講座の実施を予定しており、流域市町村の教育研究所との連携、学校支援WG委員を対象とした講座、公募による講座等を検討していく。

○授業支援の実施

- ・ 釧路市立鳥取小学校 フィールド学習に向けた事前学習

実施日時 : 1月23日(水) 10:45~11:30

実施場所 : 鳥取小学校

対象 : 3年生 52名 (26名ずつ日を分けて実施)

主な内容 : 釧路湿原について

- ・ 釧路市立鳥取小学校 フィールド学習

実施日時 : 2月7日(木) 9:00~11:30

2月12日(火) 9:00~11:15

実施場所 : 北斗展望地、温根内ビジターセンター周辺フィールド

対象 : 3年生 52名 (26名ずつ日を分けて実施)

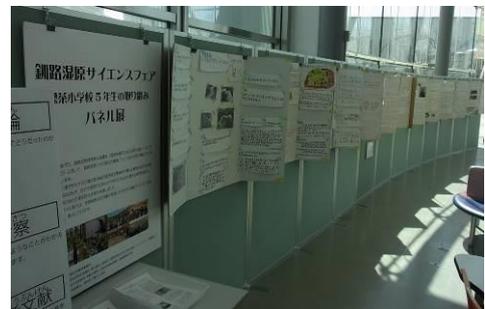
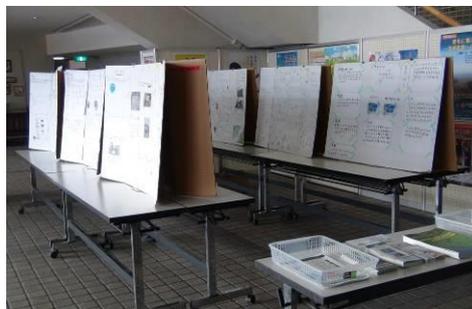
主な内容 : スノーシューや歩くスキーでの冬の湿原散策(案内とレクチャー)



- ・宮城県多賀城高等学校 施設でのレクチャー
 実施日時 : 6月27日(木) 11:30~12:30
 実施場所 : 釧路湿原野生生物保護センター
 対 象 : 1年生4名
 主な内容 : 釧路湿原の野生生物について
- ・釧路専門学校 施設でのレクチャー
 実施日時 : 7月3日(水) 14:30~15:30
 実施場所 : 釧路湿原野生生物保護センター
 対 象 : 1年生22名
 主な内容 : 釧路湿原について

○釧路湿原流域環境を題材とした実践等の発表の場作り、学びのプロセスの支援

- ・釧路湿原サイエンスフェア～標茶小学校5年生の取組みパネル展～
 期間・場所 : 1月29日(火)～2月3日(日) 標茶町開発センター
 2月4日(月)～2月12日(火) 塘路湖エコミュージアムセンター
 2月14日(木)～2月20日(水) 標茶町博物館
 3月24日(日)～3月31日(日) 釧路市こども遊学館
 展示内容 : 5年生児童が作成した研究発表ボード12枚 (参考資料参照)
 配布資料 : 問題解決能力の育成を図る「サイエンスフェア」の取組み(※)
 やってみようジュニア研究!研究発表ボードの作り方(※)ほか
 ※北海道教育大学釧路校 境教授より提供



- ・釧路湖陵高等学校における学習支援
 実施日時 : 2月23日(土) 8:45~12:50
 実施場所 : 釧路湖陵高等学校
 対 象 : 理数科1年生・2年生、普通科2年生
 内 容 : 発表へのフィードバック

※上記のほか、釧路湿原巡検事前講義(6月10日)、フィールドでの事前学習(6月13日)、湿原巡検でのレクチャー(6月26日)の実施。(2.自然再生の学校教育への活用促進を参照)

- ・標茶町立標茶小学校における学習支援
 フィールドの事前案内(5月13日)、フィールド学習におけるレクチャー(5月24日)の実施。(2.自然再生の学校教育への活用促進を参照)

- ・ 釧路市立中央小学校における学習支援
 - 実施日時 : 7月11日(木) 9:25~11:40
 - 実施場所 : 温根内木道
 - 対象 : 5年生 27名
 - 主な内容 : 木道でのレクチャー



- ・ 研究発表ボード PR サイトの作成

研究発表ボードを活用した取組みの波及を目指して、ボードへのまとめ方、これまでの取り組み例等を掲載したWEBサイト (kushiro-ee.jp/kenpatu_boad) を作成し公開を行った。



今後、釧路湖陵高等学校においては、中間発表会および学習発表会での助言を行っていく。

研究発表ボードを活用した学習については、標茶町立標茶小学校、釧路市立中央小学校に加え、釧路町立別保小学校において中間発表会や学習発表会での児童への助言、釧路湿原サイエンスフェアの実施を予定しており、地域と学校とのつながりづくり、学校への取組みの定着に向けて、地域の様々な主体との連携を図っていく。

夏休みの自由研究としての研究発表ボードの活用を図るため、釧路市こども遊学館と連携し、夏休みイベント参加者への研究発表ボードの案内、希望者への配布、夏休み後の展示等の企画調整を進めている。また、釧路町内において学校を介したボードの配布を試行的に行い、夏休み後の展示等の企画を検討していく。

第 3 期再生普及行動計画期間における WG の取組み

1. 検討の背景

- ・ 釧路湿原自然再生普及行動計画（以下、行動計画）は、釧路湿原自然再生協議会（以下、協議会）としての取組み方針をまとめたもので、本ワーキンググループは、この行動計画に基づいて設置され、取組みを進めている。
- ・ 行動計画は 5 年毎に評価し見直すこととしており、前回の見直しから 5 年が経過したことから、第 3 期行動計画の実施状況について、協議会としての取組みを評価し、今年度末の改訂を行う。
- ・ 行動計画の見直しに合わせて、本ワーキンググループのこれまでの取組みを評価し、第 4 期行動計画検討における議論に反映していく。

2. 第 3 期行動計画について

○第 3 期行動計画の考え方

- ・ 原則：「できる者」が「できること」から取り組む
- ・ 人々が湿原と接して関心を持ち、学ぶことで湿原のことを正しく知り、そこから湿原のために行動し、賢明に利用することで地域の暮らしや産業を豊かにしていくことを目指すもの。

○第 3 期行動計画の 4 つの柱

- ① 湿原にふれる、楽しむ：効果的な情報発信と関心の拡大
- ② 湿原を学ぶ、湿原で学ぶ：学校・地域の環境教育の推進
- ③ 湿原のために行動する：自然再生への市民参加の促進
- ④ 湿原と地域のくらしをつなぐ：地域産業への貢献

3. 本ワーキンググループの取組みの評価にあたって

- ・ 上記の 4 つの柱のうち主として「②湿原を学ぶ、湿原で学ぶ」に基づき、以下の取組み課題の推進を図る目的から本ワーキンググループは平成 27 年度に設置された。
 - 湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進
 - 自然再生の学校教育への活用促進
 - 学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及
- ・ 多様な主体との連携、協力の元で様々な取組みを進める中で、各取組みの学校等への定着、継続した連携、取組みの波及も徐々に見られるようになっている。
- ・ 本ワーキンググループの評価にあたっては、第 3 期行動計画における 4 つの柱から評価を行うとともに、多用な視点から取組みの評価を行い、今後の課題、取組みの方向性を検討したい。

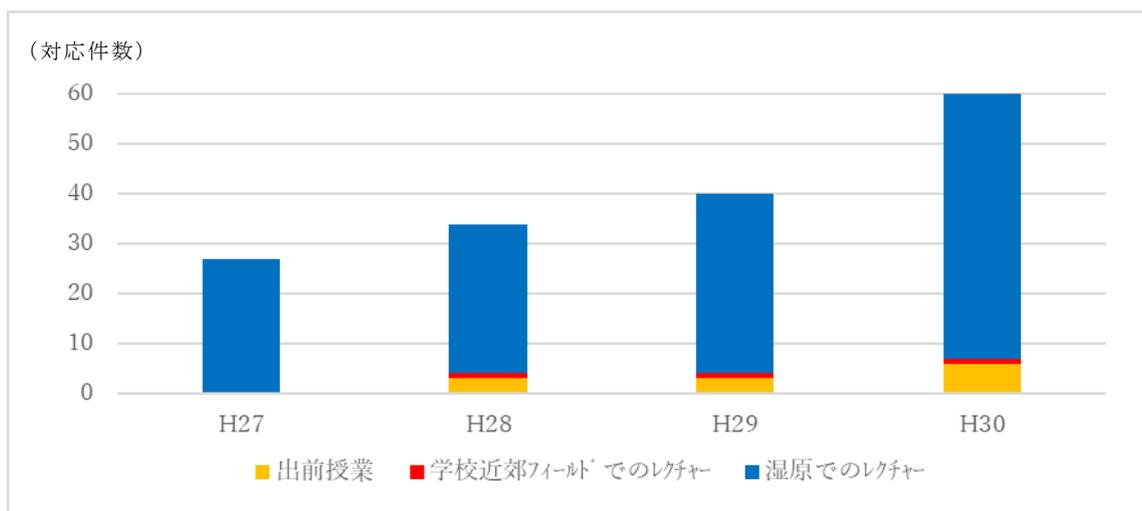
4. これまでの取組み

○学校との連携、学習のサポート（平成 27 年度から平成 30 年度までの集計値）

- ・第 3 期行動計画より学校との連携、学習サポートを積極的に行い、延べ 4 園 67 校、146 件（※）の学習サポートを行った。（グラフ 1）

※温根内ビジターセンター、塘路湖エコミュージアムセンター指導員による対応を含む。

- ・学校の要望や実施条件を踏まえて、プログラムの提案を積極的に行い、必要に応じて、フィールド学習の事前学習・事後のフォローアップ、発表会等での助言など年間を通じたサポートも行ってきた。
- ・総合的な学習の時間における学習サポートのほか、遠足や巡検、理科単元における学習サポート等を行った。
- ・効果的な学習のサポート、学校と多用な主体とのつながりづくりに努め、市民団体や博物館学芸員、専門家等、延べ 29 主体と連携して学習のサポートを行った。
- ・上記学習サポートのうち、自然再生事業地を活用したフィールド学習をモデル授業と位置づけ、5 つの事業地を活用して 12 件の授業コーディネイトを行った。



グラフ 1. 学習サポートの内容

○教員研修講座の実施（平成 27 年度から平成 30 年度までの集計値）

- ・釧路湿原の教育的な価値の普及や教員の関心喚起を目的として、15 主体と連携し、延べ 123 名の教員を対象とした教員研修講座を 12 回実施した。
- ・研修講座は、釧路教育研究センター、流域市町村の教育研究所理科部会、高等学校の研究会等と連携して行い、いずれの主体からも研修への評価は高く、継続した連携を行ってきている。
- ・研修講座では、釧路湿原の教育的な価値、活用に向けた活発な意見・意向が挙げられており、研修をきっかけとして、6 校においてモデル授業としての連携や学習サポートにつながっている。
- ・このうち 7 回の講座については、7 つの自然再生事業地を活用し、各事業地における課題、取組み等をテーマとして実施した。

○釧路湿原流域環境を題材とした実践等の発表の場作り、学びのプロセスの支援

■釧路湖陵高等学校での取組み

- ・スーパーサイエンスハイスクールの取組みとして、平成 28 年度から釧路湿原巡検のコーディネートを開始した。
- ・平成 29 年度より、達古武地区森林再生事業地における調査体験を主体とするフィールド学習を開始し、湿原巡検に向けた事前講義、フィールドでの事前学習、中間発表会および学習発表会での助言等を行っており、学習プロセスが確立されつつある。
- ・平成 30 年度より、同校が交流する宮城県立多賀城高等学校の生徒が釧路湿原巡検に参加しており、他校への波及も見られている。

■研究発表ボードを活用した取組み

- ・北海道教育大学境教授の提案を受け、平成 28 年度より仕組みづくりの検討を開始し、平成 29 年後より、標茶小学校、境教授と連携の元、研究発表ボードを活用した試行を開始した。
- ・教員、境教授、教育委員会ほか、様々な関係主体と議論と試行を重ね、標茶小学校においては、釧路湿原を題材とした学習スタイルが確立されつつある。
- ・平成 30 年度には釧路市立中央小学校 5 年生、今年度は釧路別保小学校 5 年生が研究発表ボードを活用した学習に取り組んでおり、他の学校への波及も見られてきた。
- ・また、平成 30 年度から、多くの方に取組みを知ってもらう場として「釧路湿原サイエンスフェア」と題した学外での企画展を開始し、様々な主体と連携した取組みに広がっている。

○情報のとりまとめ・取組みの PR

- ・取組みのとりまとめと周知

学習サポート事例、教員研修の実施内容等、取組み内容は WEB サイトに取りまとめ、教育委員会や施設等の協力の元、チラシ、口頭による取組みの周知を継続して行ってきた。

- ・学習に活用可能なフィールド情報、活用事例の紹介

フィールド 8 箇所、学校による実践例 14 件、研修講座としての活用事例 11 件を掲載し、活用を図った。

